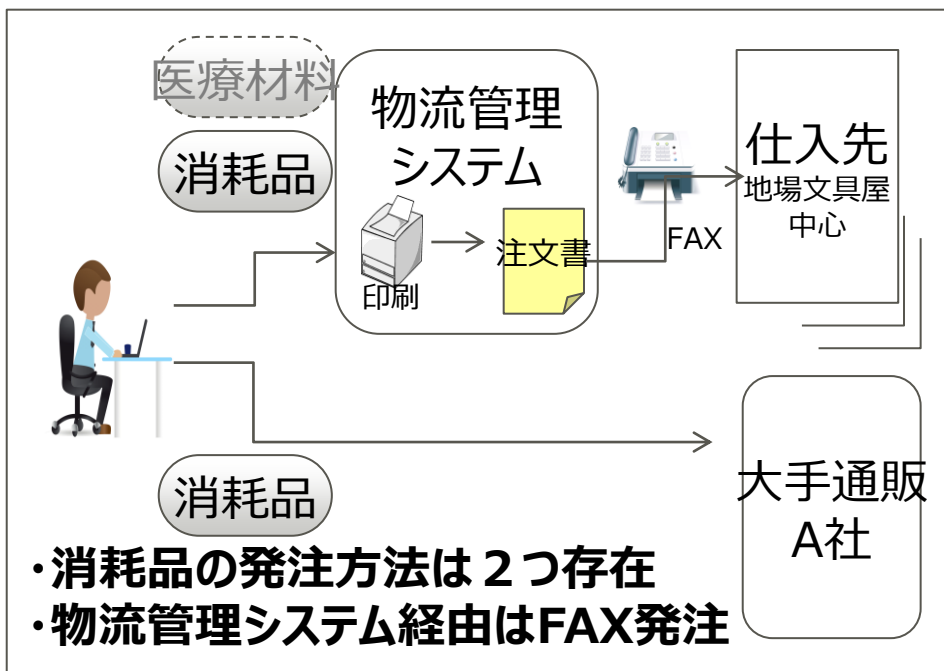


某大学病院様の抱えていた問題点

間接材を調達するにあたっての購買の業務工数を削減したい！

- 各部門からの消耗品の依頼は紙で運用され、医療材料と同じ物流管理システム利用。
- 仕入先には、指定伝票によるFAX発注・検品・納品検収を実施。
- 発注工数の拡大と商品統制がとれず品目が拡大し、業務負荷が増え、苦慮していた。

【現状簡易図】



【問題点】

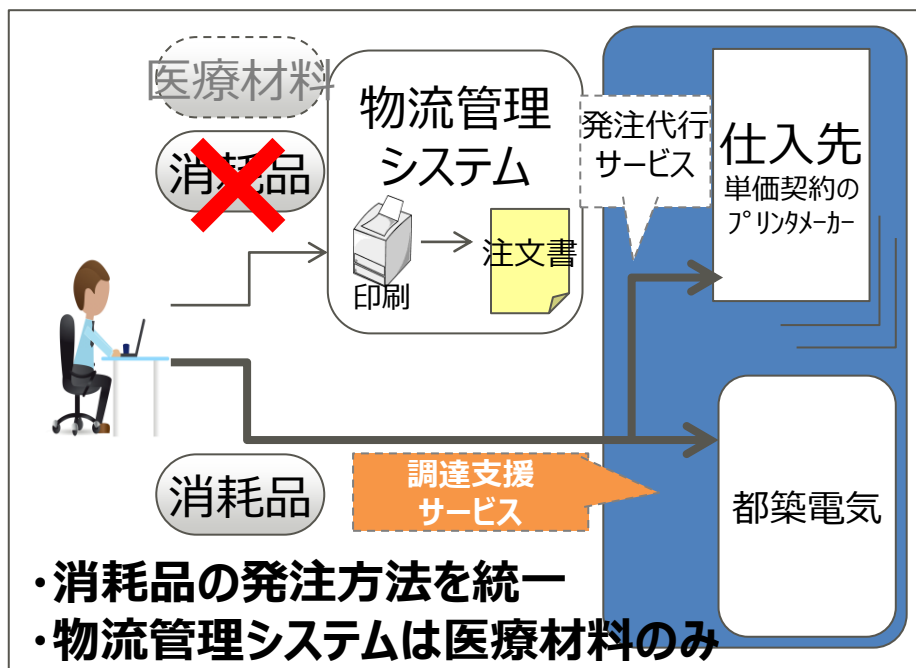
- ① 各部・科からの依頼を都度物流管理システムに手入力するため、購買の負荷が大きい (**すべて紙により仕入先への発注**)
- ② 部署によっては大手通販サイトを独自に利用している為、**購入商品・購入金額のバラつき**があり、かつ、**購買で一元管理できない**
- ③ 購入方法が複数ある為、各部・科ごとの**調達品目管理が困難**である

e-order導入効果

【評価ポイント】

- 他社に発注する年契約品も弊社サイトに掲載し、仕入先へ発注出来ること
- 実績データを一元管理出来ること
- 見積取次機能など院内業務 I T 化の発展性があること

【アフター簡易図】



【効果】

- ①各部・科からの購入申請をクラウド化することで物流管理システムへの入力が不要となり、**医療材料のみに調達を集中（本業へ集中）**
- ②購入方法をクラウド環境に一元化することで購入商品の集約・統制が可能となり、品質・価格の**バラつきを是正**することでコスト削減可能
- ④購入方法の一元化によって「見える化」が可能となり、**各部・科ごとの実績を容易に確認**できる